

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	389100091
法人名	株式会社 廣島屋
事業所名	グループホーム愛
所在地	四国中央市土居町上野乙156-2
自己評価作成日	平成 25年 1月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25年 2月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方とスタッフとの間がゆっくりおだやかに時間が流れ、入居者の方の笑顔が増え、ここに居て良かったと思えるような生活が出来るよう支援に努めております。近隣の保育園との交流も増え、入居者の笑顔のつながっています。訪問看護ステーションや医療機関、そして歯科(定期的健診)との連携が密にとれており入居者が安心した生活が送れております。看取りの取り組みが確立し、スタッフが入居者と最期まで過ごすと言う意識が強くなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山手に面した自然豊かで環境の中にあり、「笑顔・思いやり・尊敬・信頼」という理念を大切に利用者本意の支援に努めている。職員の年代は様々で利用者にとって子や孫の世代となり家族のような雰囲気、利用者一人ひとりにはゆったり穏やかに笑顔で過ごしている。明るく心優しい職員は、施設長・管理者・職員のコミュニケーションが取れている。全職員協力して少人数でアットホームな事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム愛

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

真鍋 芳恵

評価完了日

平成25年 1月 31日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 笑顔、思いやり、尊敬、信頼と言う事業所の理念のもと、住み慣れた地域で誰にでも訪れる老いを助けあって生き、スタッフ全員で入居者を支え地域の中でその人らしい生活して頂けるようケアの向上に日々努めている。</p> <p>(外部評価) 理念について見直しを検討しているが、言葉を変えるよりも「笑顔・思いやり・尊敬・信頼」という開設時に作成した理念を大切に継続している。廊下に掲示し、ミーティングやカンファレンスで確認し、共有して実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の保育園の園児にホームの敷地を開放し利用して頂いている。毎朝の園児達のあいさつにより入居者も喜ばれている。また近くの店に入居者と買い物に出かける機会も増えている。観月祭を開催して地域との交流が図られた。ボランティア団体の訪問と地域との繋がりが広がっている。</p> <p>(外部評価) 自治会の敬老会に参加したり、利用者と一緒に買い物に行き地域の方と話をしたりしている。また、地域の方が花の植栽に来てくれるなど交流があり、民生委員や地域の方から地域行事などの情報ももらっている。</p>	地域の方に事業所の周知を図り、地域の行事に参加したり、事業所の行事に参加を呼びかけたりすることを期待したい。事業所の取り組みや活動状況を見ていただく等で地域との交流を深め、理解と協力が得られるよう今後の働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 大家族が過ごす一軒の家として普通に生活し、近隣の人達とも普通に付き合いをしていけるようにケアを実施して来たが、今後はそれを生かした地域貢献を出来る取り組みを考えて行きたい。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では、日頃の活動報告やサービス評価の報告を行ったり、今年度は事例検討や看取りに関する事も議題に上げ貴重な意見やお話を伺う事が出来た。今年度から保育所園長氏が委員に加わりました。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、利用者、家族、民生委員、保育園長、市職員の参加を得て開催している。行事報告や状況報告を行っており、会議録は玄関に掲示して誰でも閲覧できるようにしている。</p>	<p>地域の中心的な立場の方々に呼びかけ、会議に参加してもらい地域密着型サービスの意義を理解してもらえよう取組みに期待したい。また、議題を工夫し参加者全員で積極的な意見交換を行い、サービス向上に反映できるような取組みに期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 市担当者との連携を密にとり、よりよいケアサービスに繋がるようにしている。地域包括センターの方もいつでも意見をお聞き出来る関係を作っている。</p> <p>(外部評価) 市職員は毎回運営推進会議に参加し、意見や情報ももらっている。また、市役所へ行きアドバイスを受けている。毎月、ふれあい相談員が訪問し、利用者と話をしたり事業所の様子を見てもらい、気軽に相談できる関係ができています。</p>	<p></p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) スタッフ全員が身体拘束について理解しており、スタッフ間でどのような時、どのレベルが身体拘束に当たるかを共有している。</p> <p>(外部評価) 玄関は施錠せずに自由に入出りができる。ベッドで起き上がりや立ち上がりに必要な利用者には、支援バーを使用している。ささいなことでも、全職員が認識し身体拘束をしないケアを実践している。</p>	<p></p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は絶対あったはならない事と捉え、スタッフ一人一人が意識してケアにあたっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在お一人の方が後見人を利用されていますが、今後この制度の理解を深める為に研修する機会を持つようにしたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な時間をかけ、出来るだけ丁寧に説明を行い、理解、納得が出来るように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議の参加やそれ以外でも、入居者家族の意見要望を聞くように努めている。また機会あるごとに生活状況を家族の方へ伝えている。	
			(外部評価) 年に1回、家族会を開催し、意見や要望を聞く機会としている。また、訪問時に生活状況や身体状況を報告し、家族の意見をしっかり聞くように努めている。毎月の請求書と併せて様子や写真・手紙をそえて送付し、日頃から密に連携を図り信頼関係ができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は、スタッフからの意見を出しやすい様に議題を提起し、カンファレンスで自由に意見交換が出来る場に行っている。また日々の会話の中で出た案や思いを代表者に伝え、働く意欲やサービスの質の向上につなげている。	
			(外部評価) 月1回ミーティングを開催している。職員は自由に議題を提案し、議題は前もって周知され、活発に意見交換をしている。施設長や管理者はミーティングに同席し出された意見を業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) スタッフの勤務状況を把握し、出来る限り反映している。また良い職場環境になるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 本人に合った研修や希望する研修の参加を勧め個人のスキルアップを図るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 愛媛県地域密着型サービス協会や、市のグループホーム交流会等、同業者と交流出来る機会を利用し積極的に交流して行きたいと考えている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接や関係諸機関への問い合わせ等を行い、ご本人の意向や要望を傾聴し、ケアに反映出来るよう関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居者のご家庭を訪問し、家族との話し合いする場を 大切にしている。特に事業所に対する要望をよく聞 き、良い関係が作れるように勤めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族の話を傾聴し、精神面・身体機能等合 わせてその方の生活環境も考慮して最良と思われる サービスが選択出来る様に提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 自ら全介助を望む入居者の方も居られるが「してあげ る」的な感覚は持たず「共におこなう」といった平 等・共同の思いでケアすることを常に念頭において支 援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 事あるごとに家族との連携を密に取り、また面会時に は入居者の生活状況等をお伝えして、家族の方と思 いが共有出来るよう情報交換して関係作りに努めてい る。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 本人やご家族との会話を通してご本人の大切にしたい 馴染みの人や場所について理解するようにしている。 居室にもなるべく馴染みのものを持って来て頂くよ うにお願いし、面会時間も制限せず、いつでもご家族 や馴染みの方が気軽に来て頂く様にしている。 (外部評価) 利用者や家族から聞き取り馴染みの関係を把握してい る。毎月お寺に行っていた利用者には職員と一緒に お参りしたり、知人の訪問時にはゆっくり話ができる ように配慮するなど、馴染みの関係が途切れないよう に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 9人9色ではありますが、其々の入居者が持っている長所を生かし、スタッフが中間的な役割をして、利用者同士が関わり合えるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設に移られた方の情報提供は行っている。必要に応じて面会にも出かけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で入居者に話や、しぐさ、表情などから思いをくみ取り少しでも実現出来るよう努めている。	
			(外部評価) 利用者に寄り添いながら会話をし、一人ひとりの声を聞き意向を把握している。困難な場合は表情やうなずき、ボディタッチなどで読み取り、また家族から情報を得て、利用者の要望に応じて生活できるように支援している。個人ファイルや申し送りノートに記入し共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時、ご家族にアセスメントシートを記入してもらったり、担当の居宅介護支援事業所に情報を提供してもらい入居後はご本人からも話を聞くなどこれまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日常の生活の記録を活用しその方のリズムを知り一人一人の過ごし方や心身状態、持っている力を把握するようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ご家族や医療機関からの情報等アセスメントに基づいて入居者が抱えている課題を介護計画に挙げ計画目標達成時に全職員がモニタリングして、カンファレンスの時にそれをまとめ、次の介護計画に生かしている。またご家族からのご意見は常に聞くようにしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は管理者と計画作成担当者で作成している。家族の要望等は事前に電話や訪問時に聞き取り反映している。毎月モニタリングを行い、3か月に1回の担当者会議で見直し、その人らしい暮らしができるように支援をしている。</p>	<p>利用者一人ひとりの介護計画が分かりやすいようにファイルされているが、サービスの実施状況や評価につながる根拠となるものが解りにくいため書式を工夫することを望みたい。記録を解りやすくすることで日々のモニタリングが明確になり、現状にあったケアにつながることを期待したい。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 申し送りノートを作成し、入居者に今起きている問題に解決策を記入し、スタッフ間で情報を共有している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居者やご家族の意向を聞きながら通院や外出の支援を行っている。昨年度はホームから他病院のデイケアを利用する取り組みもはじめた。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 近隣の保育園や近所・地域の民生委員さん、またふれあい相談員さん、ボランティア団体さん等の応援を得ながら地域のなかで入居者の方が暮らしを楽しめるように考えている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 入居者・ご家族の希望を第一に24時間体制の訪問看護による週3回の健康管理と問題時の相談、以前からのかかりつけ医への受診の援助や情報提供を行っている。協力病院の定期的な往診や、内科だけでなく歯科・整形外科等他科の受診も行っている。</p> <p>(外部評価) 入所時、家族の希望で月2回の往診医をかかりつけ医としている。専門医の受診が必要な時はかかりつけ医の紹介で家族が同行し受診している。受診後は病院から情報提供や家族から受診内容の報告がある。週3回の訪問看護で健康管理の相談ができるなど、医療との連携が取れている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 医療連携している訪問看護ステーションとは、連絡・相談等が密に取り合いながら、入居者の健康管理に取り組んでいる。色々アドバイスを頂く事でスタッフも安心してケアにあたっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時は市担当課からの指導もあり、病院情報を提供するように努め、場合によっては病院に出向き、担当者と話をして円滑に情報のやりとりが出来るように努めている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りを希望する方がおられたため、カンファレンスや医療機関との話し合いや運営推進会議でも意見を求め、時間をかけて検討し、看取り取り組みが確立した。なお一層スタッフのスキルアップが必要になって来ると考えている。</p> <p>(外部評価) 高齢化や重度化に伴い家族から住み慣れた場所で最期を迎えさせたい希望があった場合は、事業所で看取りに関する指針、マニュアルを作成し、医師や職員が連携を取り要望に対応する方針である。今後も継続して職員の研修や勉強会を重ねレベルアップを図り、利用者の住み慣れた場所で安心して最期を迎えられるよう支援する予定である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の手順、連絡網など分かりやすい場所に掲示し、常に念頭に置くようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の参加と指導を得て、避難訓練は定期的実施している。今年度も運営推進会議の委員の方にも参加していただいた。火災だけでなく地震への対策が課題だと思う。 (外部評価) 年2回、消防署職員参加のもと避難訓練を実施している。緊急連絡網、避難経路、避難場所、消火設備を確認し、利用者の避難時間など非常時の対策の重要性を全職員が認識している。備蓄については2日分の水と食料品、携帯用ガスを確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 何気ない日常会話の中にも入居者の自尊心を傷つけてしまうことを意識し、注意を払うようにしている。また個人情報の保護に関しても徹底するようにしている。 (外部評価) 利用者一人ひとりを尊重した声かけをしている。何気ない言葉で利用者を傷つけないように気を配り、排泄時や更衣時には羞恥心に配慮している。全職員で小さなことでも見逃さないようにするなど、引き継ぎ時に確認しプライバシーを損ねない対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者ご自身がどうしたいのかをまず伺い、出来るだけ希望に添えるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 入居者一人一人のペースを大切にし、穏やかな生活が送れるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入居者の好みやこれまでの生活の延長として、個々に応じて身だしなみや、おしゃれができるように心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 玉ねぎやジャガイモの皮むきや料理の盛り付け等、出来る事をして頂いている。テーブルを拭いたり下膳などの後かたづけも出来る方は一緒にしてくれている。	
			(外部評価) 食事は利用者と話し合いながらメニューを決めている。利用者と一緒に準備や料理、片付けをしている。利用者の食べたい物を取り入れ、品数や野菜が充実しており「美味しい」との声が聞かれ楽しく食事をしている。食後は口腔ケアを実施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスのとれた食事を提供出来るように心がけている。入浴後の水分補給や夜間自室にお茶をおいたり十分水分補給出来るように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方は毎食後声かけを行い介助が必要な方はスタッフが介助している。定期的に歯科衛生士が訪問して口腔ケアを行い、スタッフにも指導してもらっている。必要時歯科医の往診を行ってもらっている。嚥下機能が弱くならないように口腔ケアに気を付け、嚥下体操に歌を5曲歌うのを毎日昼食時に行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄表を活用し、時間誘導や入居者のタイミングに合わせて支援するように心がけている。気持ちよく排泄出来るように可能な限りトイレでの排泄を支援している。	
			(外部評価) 利用者がトイレで排泄できるように支援をしている。オムツを使用している利用者もいるが、排泄パターンや様子を見て声をかけをしトイレで排泄できるよう支援をしている。便秘対策として十分に水分を摂り繊維質を食事に取り入れるなど配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質のある食べ物を取って頂いたり、水分摂取に心がけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 2～3日間隔で入浴している。気持ちよく入浴して頂けるように声がけの工夫や、一人一人に応じたタイミングを計る等工夫している。	
			(外部評価) 2～3日に1回入浴している。利用者全員が入浴を楽しみにしており、ゆっくり話をしながら入浴ができる。身体状況に応じて、浴槽に入れない利用者にはシャワー浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時に応じて、一人一人の気持ちを尊重し、安心して休息や睡眠を取れる様に支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤情報をファイルして、スタッフが周知するように努めている。服薬の仕方も一人一人に応じた支援をするようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 野菜作りや音楽、手作業等、生活に張り合いや喜びを感じて頂けるように一人一人に応じた楽しみや役割を探り、お膳立て出来るように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望にはなかなかかなえられない所もあるが、出来るだけ戸外へ出かけられるよう支援している。ご家族の方にも協力していただいている。	
			(外部評価) 日常的に散歩や買い物、近くのお寺にお参りに出かけ外出支援をしている。春には桜を見に出かけたり、天気の良い日はひなたぼっこをするなど外気にふれ気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ほとんどの方が金銭管理は難しいが、お金の事を気にする方にはその都度説明し理解して頂ける様に努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 入居者の希望に応じその都度対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 車いすでの生活も十分な広さの確保が出来るように工夫している。リビングの窓からは外の景色がよく見え四季を感じる事が出来る。又季節を感じて頂ける様に壁画の作成も入居者と共に行っている。	
			(外部評価) リビングは日当たりがよく、季節に合わせて壁画を飾っている。台所からリビング全体を見渡すことができ自由に行き来している。畳スペースやソファで自由にくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 座席の工夫やその方の状況に応じた誘導を心がけている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたタンスや仏壇、テレビ等をお持ち頂き、入居者の好みのアレンジをしていただき快適に過ごすように心がけている。	
			(外部評価) ベッドやエアコン、クローゼットが常備されている。使い慣れた身の回りの物を持ち込むことができ、タンスや仏壇を置いている利用者もいる。家族の写真や手づくり作品を飾り心地よく過ごすことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや浴室など入居者が混乱しない様に表示したり、フロアも安全に生活出来るようにしている。	